

# 統計だより

## 県内各市町の統計所管課だより(その11 雲仙市)

雲仙市総務部政策企画課 向井 遼

### 【雲仙市の紹介】

雲仙市は長崎県の南東部、島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置し、肥沃な大地や有明海と橘湾の2つの海を生かした農林水産業と、泉質の異なる雲仙温泉と小浜温泉、四季折々の美しい景観、温暖な気候、豊かな風土などを活かした観光業を基幹産業としています。

雲仙市の人口は昭和22年をピークに、平成27年国勢調査では、44,115人、世帯数は15,376世帯となっており、減少傾向にあります。このような人口減少問題を抱える中、その克服に向け、平成26年度から定住促進等の取り組みを開始し、現在においては、平成29年に策定した「雲仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を内包した「第2次雲仙市総合計画」に基づき、総合的な地方創生への取り組みを進め、「自然との“つながり”」、「人との“つながり”」、「市民や地域、近隣との“つながり”」を基本とした「“つながり”で創る賑わいと豊かさを実感できるまち」の将来像の実現に向けた取り組みを加速しています。

### 【人との“つながり”による地域活性化】

人口減少、少子高齢化の中において、地域産業を生かし出生数が増加している自治会、また、空き家が多く占める地域において集落形成に取り組む地域があります。

農業を基幹産業とする雲仙市国見町の八斗木地区では、地域特産品である「八斗木白ネギ」のブランド化に取り組んでおり、平成23年度から実施した県営圃場整備により、規模拡大に資する農業経営基盤を確立しています。その結果、後継者の確保・育成や地域コミュニティの形成にも成果が表れ、出生数が増加傾向に転じています。

また、温泉街に隣接する雲仙市小浜町の刈水地区は、小浜出身のデザイナーを中心に、自然環境を活かしながら、住民の暮らしと観光をつないでいくという地域活性化プロジェクト「刈水エコビレッジ構想」に平成25年から取り組んでおり、現在様々な地域からクリエイターが集まり、新たな地域づくりに取り組んでいます。



国見町八斗木地区特産品の「八斗木白ネギ」



エコビレッジ構想の拠点である「刈水庵」

～統計データ編～

【雲仙市の産業構造】

区 分	総生産額（百万円）		就業人口（人）	
	*	構成比	(H27国勢調査)	構成比
第1次	16,911	14.9%	5,642	25.0%
第2次	25,492	22.2%	4,484	19.8%
第3次	72,445	62.9%	12,481	55.2%
計	115,502	-	23,096	-

(H29 市町村民経済計算)

雲仙市の総生産額（平成29年度）は1,155億200万円で、県全体（4兆5,757億100万円）の2.5%を占めています。

特徴としては、総生産額の産業別比率を見ると、第3次産業（62.9%）、第2次産業（22.2%）、第1次産業（14.9%）の順となっており、産業分類の比率で見ると、上位から「農業」149億3,400万円（12.9%）、「不動産業」144億2,500万円（12.4%）となっています。雲仙市の1次産業の総生産額は長崎県の1次産業の中で最も高い12%を占めており、県内有数の農業地帯であることを示しています。馬鈴薯・白ネギ等をはじめとする農作物のブランド化の推進に積極的に取り組んできた成果もあり、農業の総生産額は平成18年の104億2,300万円から年々増加傾向にあり、平成29年は149億3,400万円と、約45億円増加しています。

【統計調査について】

この統計だよりが発刊される頃は、統計開始100年の節目を迎える国勢調査が本格的に開始されている頃と思います。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、新たな生活様式が求められ、社会観が変わり、住民の生活が変わろうとしています。この様な中で、統計は変化を表す重要な“指標”です。現在の日本の“指標”を表す国勢調査へのご協力をお願いいたします。